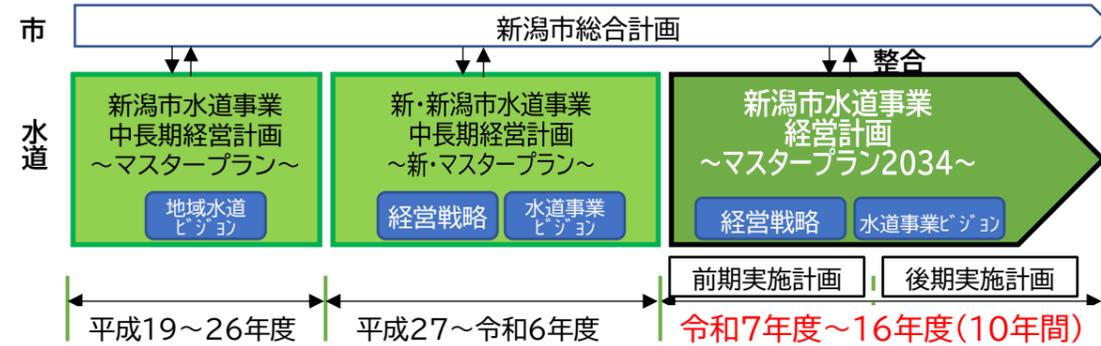


次期 新潟市水道事業経営計画（骨子案）の概要

1 次期計画の構成

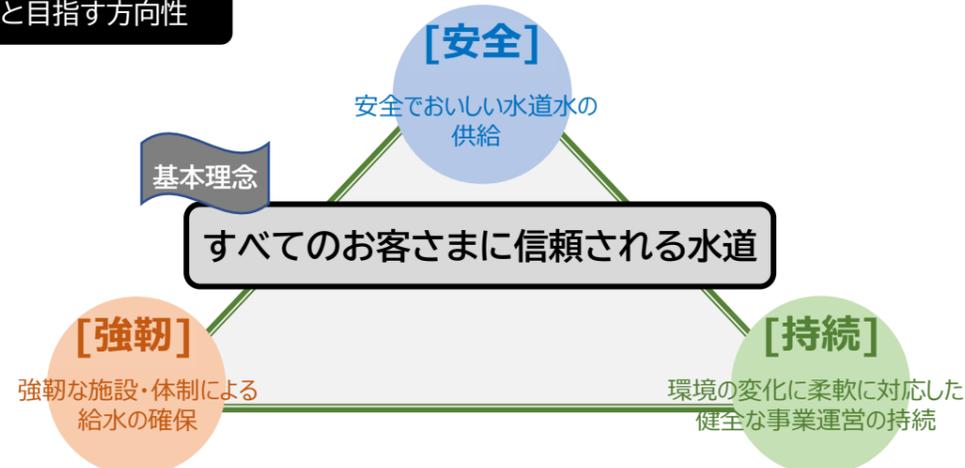
位置づけと計画期間



基本的な考え方

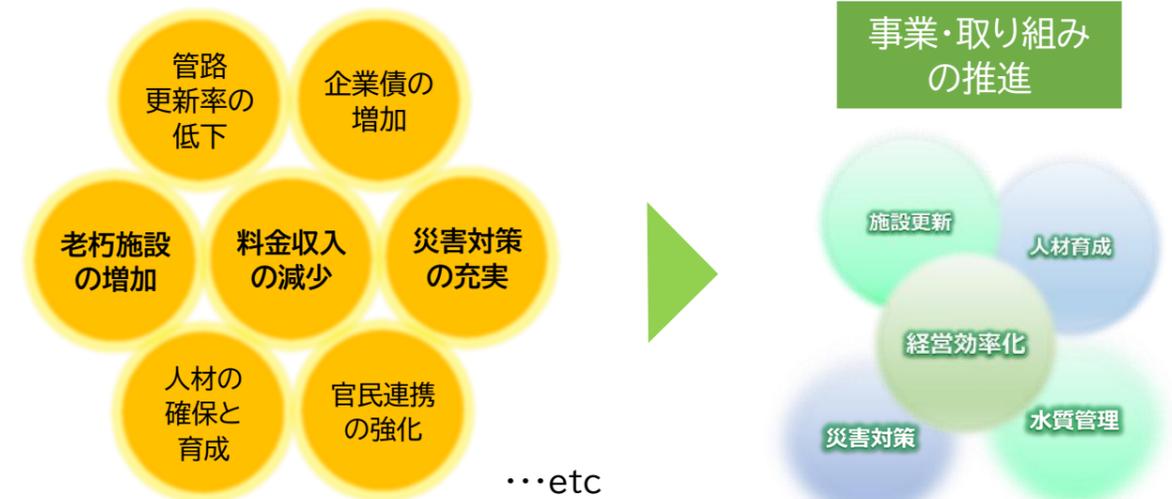
- ・ 「新潟市水道施設整備長期構想2020」における施設整備構想や、現在策定中のアセットマネジメントにおける財政収支見通し等を踏まえた計画を策定。
- ・ 本市水道事業の理想とする将来像を実現するため、優先的に実施する必要性が高い事業、取り組みを選定。
- ・ 基本計画内に総合目標、重点目標（施策別）を設定し、将来像の実現に向け政策、事業・取り組みの進捗管理を実施。

基本理念と目指す方向性



2 課題と主要事業

水道事業が有する課題



主要事業

（事業詳細は次ページを参照）

○ 浄配水施設の計画的更新・耐震化

基本方針

① 浄配水施設の計画的更新

施設の信頼性と安全性を維持するため、老朽化した設備を計画的に更新

② 施設規模の適正化

水需要の減少を踏まえ、設備等の更新に併せ、施設規模を適正化

③ 耐震化の推進

地震災害の影響を最小限にとどめるため、浄配水施設の耐震化を推進

○ 管路施設の計画的更新・耐震化

基本方針

① 基幹管路の更新と耐震化

事故災害時の漏水による影響が大きい、基幹管路の更新と耐震化に注力

② 配水支管の更新と耐震化

地震に対して脆弱で漏水リスクも高い老朽铸铁管(CIP)の更新と耐震化を推進。

③ 重要施設向け配水管の耐震化

災害対応拠点となる行政機関、救急医療機関への供給ルートの耐震化を継続実施

次期 新潟市水道事業経営計画（骨子案）の概要

浄配水施設の計画的更新・耐震化

現計画における実施状況

今後の水需要減少を踏まえ策定した「新潟市水道施設整備長期構想2020」における整備計画を考慮し、一部事業の実施時期を見直し、主に以下の事業を実施した。

- 阿賀野川浄水場施設整備事業(H27～R1)

ポンプ棟築造、受変電・自家発電設備更新、ポンプ設備更新、監視制御設備更新 等

- 青山浄水場施設整備事業(R3～R6予定)

受変電設備更新、配水ポンプ設備更新、薬品注入、消毒設備更新 等

- 巻取水場施設整備事業(R4～R6予定)

受変電設備更新、自家発電設備更新、取水ポンプ設備更新

次期計画での整備概要

浄水処理・送配水機能の信頼性と安定性を維持していくため、老朽化した設備を更新するとともに、水需要の減少を踏まえて設備能力を見直し、施設規模の適正化を図る。

また、地震災害の影響を最小限にとどめるため、浄配水施設の耐震化を推進する。

施設名	概算事業費	主な整備内容	前期					後期						
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16		
巻浄水場	約 24 億円	受変電、自家発、送水ポンプ、監視制御、場内連絡管等												
竹尾配水場	約 40 億円	受変電、自家発、配水ポンプ、監視制御、場内連絡管等												
阿賀野川浄水場	約 30 億円	薬注、排水処理機械、沈殿機械、場内連絡管等												
信濃川浄水場	約 10 億円	監視制御、場内連絡管												
戸頭浄水場	約 50 億円	受変電、薬注、活性炭、監視制御、場内連絡管等												
満願寺浄水場	約 30 億円	監視制御、取水ポンプ、活性炭、場内連絡管等												

※ 現時点での概算事業費が概ね 10 億円以上と想定される浄配水施設整備事業を示す。

管路施設の計画的更新・耐震化

現計画における実施状況

中心市街地での工事が中心となり、夜間作業や推進工法など難易度の高い工事が多いことや、工事費の高騰もあって、当初予定していた計画を一部見直し、以下の事業を実施した。

- 基幹管路更新事業・配水支管更新事業

基幹管路更新に投資を集中。配水支管においてはCIP更新を優先的に実施。

- 大ブロック間相互連絡管整備 ※R6終了予定

巻-戸頭浄水場間、信濃川-青山浄水場間、南浜-内島見配水場間

- 重要施設向け配水管の耐震化

行政機関12機関、救急医療機関36機関 向け配水管の耐震化が完了(R6予定)

次期計画での整備概要

引き続き、漏水事故の未然防止を図り、安定給水を確保するため、アセットマネジメントによる更新周期を設定し、老朽化した管路施設を計画的に耐震管に更新する。

次期計画では、事故災害時の影響を考慮し、各配水場向け送水管(竹尾・内野・秋葉)を更新する。

基幹管路更新事業

路線名	概算事業費	布設箇所・布設延長	前期					後期						
			R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16		
竹尾送水管	約 75 億円	阿賀野川浄水場～竹尾配水場 (φ800～φ1000 L=8,940m)												
内野送水管	約 50 億円	青山浄水場～内野配水場 (φ500 L=6,464m)												
秋葉送水管	約 19 億円	満願寺浄水場～秋葉配水場 (φ500 L=6,292m)												
団九郎幹線	約 11 億円	関屋大橋～旧歴世礦油 (φ500 L=1,359m)												
長戸呂幹線	約 19 億円	濁川～新崎～長戸呂 (φ400～φ450 L=8,453m)												

※ 口径と延長は既設管の情報。R17以降も継続となる路線はR7～R16の事業費。

重要施設向け配水管の耐震化

「行政機関」と「救急医療機関」を対象(全9機関)に実施。本計画期間をもって全57機関の更新終了。